

旭川市廃棄物減量等推進審議会 会議録（平成30年度 第4回）

日時	平成31年2月12日（火曜日）午後2時00分～午後3時00分
場所	旭川市職員会館 3階 6号室
出席者	<p>委員 17名          （荒井守，今井一也，菊地登，国沢広子，後藤清乃，小林渡，近藤雅子，齋藤ひろみ，          崎山学，佐藤一彦，谷澄江，成田義勝，羽原美奈子，古藤学，安田志津吉，山田智善，          吉田徳治）</p> <p>事務局 14名          （高田環境部長，岩崎環境部次長，小池廃棄物政策課長，上村廃棄物政策課施設整備担当課長，大竹廃棄物政策課長補佐，佐藤廃棄物政策課長補佐，松下廃棄物政策課主査，増田廃棄物政策課員，渡辺廃棄物処理課長，尾崎廃棄物処理課長補佐（旭川市廃棄物処分場所長），古賀廃棄物指導課長，吉田クリーンセンター所長，内田クリーンセンター主幹，工藤クリーンセンター主幹（リサイクルプラザ所長））</p>
公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
会議資料	<p>資料1 缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）          資料2 缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）概要版          資料3 旭川市清掃工場整備基本構想（案）に対する意見等の募集について          意見提出手続「意見書」          旭川市清掃工場整備基本構想（案）概要版          旭川市清掃工場整備基本構想（案）</p> <p>このほか，次第，委員名簿，座席表，缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）に係る意見提出手続「意見書」を配付。</p>

次第	発言者	発言の要旨
1 開会	事務局	<p>[定刻のため，開会した。]</p> <p>[本日3名の委員から欠席の連絡があったことを報告し，過半数に達しているため会議を開催する旨を報告した。]</p> <p>[資料の確認をした。]</p>
2 議事 缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）について	事務局	議事進行を会長に交代する。
	会長	<p>これより議事に入る。</p> <p>議事「缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）について」，事務局から説明願う。</p>
	事務局	[資料1及び資料2に基づき説明した。]

次第	発言者	発言の要旨
	会長	最後に話があったように、本件は、今月末からパブリックコメントを行うため、それに先駆けて今回、本審議会で審議するものである。ただ今の説明に対して御質問や御意見があればお願いしたい。
	委員	(資料2の) 2 ページ目のグラフについて、今の説明では実績と将来予測の乖離については、しばらく見守りたいという話であったが、既に2か年度に渡って乖離している。今後、この将来予測についての見直しを行う予定はないのか。
	事務局	実績と将来予測の乖離については、来年度(平成31年度)にごみ処理基本計画の見直しを行うため、その中で数値の見直しも検討する。当然、施設についても、それに合わせて計画を進める。
	委員	建設用地について、市有地でいくつか候補があると思うが、現時点でいくつくらい候補があるのか。また、昨年、水害などがあり、私個人としては、嵐山や高砂台などの高台がいいのではないかと思う。
	事務局	建設用地については、庁内で検討中である。複数の中から選ぶこととなっているが、現状においてはお示しできる段階にないので御了承いただきたい。
	委員	候補地は現在、いくつくらいあるのか。
	事務局	複数ということで御了解いただきたい。必要面積の13,500㎡を満たす市有地となるので、候補はそれほど多くない。昨年のような水害などへの対策についても、施設の計画の中で進めていく。どのような場所であっても、災害に強い施設ということを大前提に整備していく予定である。
	会長	市有地の中で必要面積を確保でき、災害に強い施設にすることを考えながら候補地も決定していくということであり、現段階で細かいところを発表できる段階にないという理解でよいか。
	事務局	そのとおり。
	委員	<p>リサイクルプラザに運ばれるまでの収集運搬方法について、以前も話をしたが、現在、一般住民の方は一升びんやビールびんといった生きびんを排出しているが、収集段階において、缶とびんと一緒にパッカー車に積み込んでプレスされるため、当然、パッカー車の中で割れて、さらに、リサイクルプラザで一気にダンプの要領でパッカー車の中身を下ろすので、また割れる。この方法は、循環型社会形成推進基本法の趣旨から大きく外れているのではないかと常々思っている。缶とびんとを一緒にパッカー車で運ぶというこの方法は、おそらく30年ほど前に大阪府枚方市が最初に始めて、その評判を受けて現在につながっていると思われ、札幌などでも同じ方法を採用している。</p> <p>では、そのビールびんや一升びんなどを本当に事業者の方が使っていきたいのか、市内の酒造会社の社長さんにお伺いしたら、社会的な責任があるので、自分の会社でびんを洗って、ひびが入っていないか検びんをしてから使っていると言っていた。どこからリサイクルびんを仕入れているかという、現在は、</p>

次第	発言者	発言の要旨
		<p>リサイクルプラザで分別したびんを市内の容器回収・卸業者が買い取って、それを酒造会社などに販売している。買ったびんも相当数、割れたり欠けたりしているとの話もある。できれば一度、業界と市とで話し合う機会が欲しいとも言っていた。</p> <p>この話を踏まえると、三十数年前の手法が未だに変わっていないというのはちょっと芸がない。もっとおもしろい方法があるんじゃないかと思っている。収集を変えれば、選別が非常に楽になる。スチール缶やアルミ缶だけになれば、手選別する人たちの環境がよくなるし、処理スピードが速くなる。そうすれば、時間的に間に合うか分からないが、リサイクルプラザの建設のどこかの部分を割愛できると思う。</p>
	委員	<p>今、委員からお話あったことに補足したい。収集する段階において、びんと缶と一緒にパッカー車で集めること自体、手間が非常にかかり、処理はそれ以上に手間がかかる。それを改善するには、収集の段階からびんと缶は別々に集めることが一番ベターだと思う。また、一番困ることは、収集・選別する過程で、缶の中に割れたびんが1割以上入ること。びんが混入したまま機械でプレスして、市の方で販売している。そうすると、スチール缶にしてもアルミ缶にしてもかなり品質の悪いものになるため、売却するに当たってのネックとなっている。それを解消するには集める段階で缶だけ集めれば選別が非常に早い。コンベアと磁石1つあればスチール缶とアルミ缶が選別できるし、ガラス瓶は混ざらないので、収集運搬の方で少し考えていただきたい。</p> <p>あと、場所の話は事務局の方で決める話だと思うが、我々が見ていると、亀吉の下水終末処理場の裏には素晴らしい土地がある。あそこなら焼却施設からプラザから全部持って行っても問題ないと思うので、ちょっと考えていただきたいと思っている。</p>
	会長	<p>ただ今、現場の声という形で御意見があった。今回の構想案の中でも、課題として、ガラスびん成果品の品質改善のために収集方法などを考えていくとされているが、この点について、事務局の方に現時点で何か考えがあればコメントをお願いしたい。</p>
	事務局	<p>会長から話があったように、ガラスびん成果品の品質改善というのは今回、施設の老朽化とともに改善したい部分のひとつである。我々としても缶やびんをいかにうまく選別できるか検討している段階であり、その前段である収集方法についても全市的に大きな影響があるので、施設整備を進める中で整理し、より良いものにしていきたいと考えている。</p>
	事務局	<p>少し補足する。このあと報告させていただくが、清掃工場整備基本構想(案)についても、現在パブリックコメントを行っており、その中で、廃プラスチック類の焼却への移行という考え方を持っている。これは現在、最終処分場に直接埋立をしている廃プラスチック類について焼却処理をしようというものであり、燃やせないごみに入っている廃プラスチック類をそのまま収集して選別・焼却するのか、それとも燃やせるごみの方に入れ替えて収集・焼却処理するのかといった課題もある。これの次の段階として収集体制をどうするのか検討をしていくが、びんと缶を分けて収集をした場合において、収集回数が増</p>

次第	発言者	発言の要旨
		<p>えると、その分コストもかかるので、そこは色々配慮しながらどういう形なら効率的に収集できるのか一緒に考えていきたい。皆さんがおっしゃるとおり、缶とびんを一緒にパッカー車に入れて収集するよりも分けて収集した方が品質向上につながることは重々承知しており、そういった体制で新施設を作りたいという思いはあるが、収集体制をどうするかというのは次の段階において、施設の整備に間に合わせるように検討を進めていきたいと考えている。</p>
	委員	<p>リターナブルびんとして利用できないびんは粉々に砕いてカレットとして利用されていると認識しているが、私の知る限りでは、カレットも順調に捌けていないと見ている。これを踏まえて、資源を扱う業界の方々と出口の部分で色々知恵をいただいたりすることによって、行政の方のコストも下がるのではないかと思う。リサイクルプラザも次期施設では民間のノウハウを使いたいと考えているようなので、収集についても民間の知恵を積極的に取り入れたら良いのではないかと思う。</p>
	事務局	<p>今の御指摘はごもっともである。今後、分別収集の検討を行うに当たっては、役所の内部だけではなく、資源物の出荷先や収集運搬業者の方など、色々な民間の方に一緒に入ってもらって、検討を進めていきたい。</p>
	委員	<p>缶やびんの収集の話があったが、現在でも燃やせないごみは隔週の収集である。缶やびんについても同じように隔週で収集することも視野に入れたらどうか。</p>
	事務局	<p>現在、缶・びんについては毎週水曜日に収集しているが、それを隔週にすることも当然手法のひとつだと考えている。ただ、収集に関しては、市民の皆様のご利便性などもあるので、そういう部分も含めて今後検討して参りたい。</p>
	会長	<p>分別方法や収集方法については、先程の廃プラスチック類の件もあるので、各施設の稼働時期を見据えて検討を進めるということで、今後、先程話のあったような御意見も取り上げて、一番良い方法を探していきたいというのが現在の状況か。</p>
	事務局	<p>そのとおり。リサイクルプラザと清掃工場の稼働時期ということがひとつのタイミングとは考えているので、そのタイミングまでにしっかりと整理していきたい。</p>
	委員	<p>先程、プラスチックは焼却するというような発言があったが、その理由は何か。</p>
	事務局	<p>プラスチックといっても、容器包装プラスチックには変更ない。現在、燃やせないごみとして緑のごみ袋に入れている廃プラスチック類について、焼却処理に移行することを考えている。主な理由としては、燃やせないごみとして直接埋め立てしている廃プラスチック類の量が相当程度あり、これを破砕選別して焼却することによって、現在、埋立処分量が年間約 20,000t のものが約 12,000t まで、約 8,000t 減量できる見込みがあること、また、焼却施設での</p>

次第	発言者	発言の要旨
		エネルギー回収率が向上するという見込みがあること、大きくその2点により廃プラスチック類を焼却処理に移行したいと考えている。
	委員	今、世界的に話題になっている海洋マイクロプラスチックによって海洋生物が非常に危機に立っているが、それと今回の関連性はあるのか。
	事務局	直接的には関係ない。
	委員	環境部としてはそういった問題を考えているのか。
	事務局	海洋プラスチックごみについては、議会でも話題になることがあるが、国でも積極的に対策をしており、ひとつに使い捨てプラスチックを減らす、ごみの減量化そのものが海洋プラスチックごみの問題解決にもつながっていくと考えられる。本件自体が海洋プラスチックごみをターゲットにしたものではないが、先程の廃プラスチック類を燃やせないごみから燃やせるごみに変更する件についても、いずれの方法にしても適正処理しなければならず、海洋への流出は防がなければならない問題であると認識している。
	会長	<p>廃プラスチック類については清掃工場検討委員会の中でも議論があったが、今は使い捨てプラスチックを減らす、プラスチックそのものを減らすという世界的な流れもあると思うが、現状、それをゼロにすることはできないし、使っている限りは、何らかの処理が必要である。ひとつは容器包装プラスチックを適切に処理し、それに当てはまらないプラスチックをどうするか。それが海や川に流れてしまっただけでは困るので、現在は埋め立てている。埋め立てるとどうしてもその分の土地が必要になってくる。新しい清掃工場ではエネルギー回収ができるということで、燃やすことは最終手段かもしれないが、できるだけエネルギーを回収することで何とか許してもらおうとしている。私個人の考えであるが、今後、プラスチックを燃やすということ自体がまずいという流れになってくると思っている。有害物質の問題ではなく、プラスチックは元々石油であるため、石油を燃やすという行為がよろしくないという方向性になっていく世の中だと思っているが、現在できる最善の方法は、燃やしてエネルギー回収することが良いのではないかと思います。プラスチックを貯蔵しておいて、プラスチックを吸収できるというか、気体を出さないように処理できる技術ができればそのとき処理してもいいと思って、貯蔵することはどうかと、清掃工場検討委員会の際に言ったが、現在ではそういう技術が確立されていないので、最大限エネルギーを回収していくというのが良いのではないかと、そこまでは許されるのではないかとということで、このような方向になっている。今後50年くらいの間に色々なことが変わってくる可能性はあると思うが、その時点で関わる皆さんが考えていく大きな問題だと思っている。</p> <p>そのほか御意見はあるか。</p>
	委員	(特になし)
	会長	それでは、ただ今いただいた御意見を参考にして、資料を修正すべきところがあれば修正しつつ、パブリックコメントに向けて進めていきたい。最終的な形としては、私と事務局に一任していただくということによろしいか。

次第	発言者	発言の要旨
	委員	[了承]
	会長	ありがとうございます。では、2月21日から3月25日にパブリックコメントを予定しているのので、その後、パブリックコメントが終了した段階で、市民の方々からいただいた御意見等をまとめていただき、次回の審議会でそういった御意見を含めて審議をするといった流れになるので、引き続きよろしくお願ひしたい。
3 報告 旭川市清掃工場 整備基本構想 (案)について	会長	議事についてはここまでとし、次に3報告事項として「旭川市清掃工場整備基本構想(案)について」、事務局から報告願う。
	事務局	[資料3に基づき説明した。]
	会長	ただ今の説明について、御質問があればお願ひしたい。 現在、パブリックコメントを行っているのので、いただいた御意見についてはパブリックコメントの意見のひとつとして考慮する。また、先程から話のある清掃工場検討委員会には、私も本審議会の会長として参加しているのので、何かあれば言っていたいただきたい。
	委員	最終処分場について、結局、焼却しても残さが出て、その残さは埋め立てることになると思うが、新しくできる最終処分場と清掃工場の関係性を説明していただきたい。
	事務局	最終処分場については、現在、新たな場所に建設するための用地選定をしている段階である。今の最終処分場は地域の方々と協議をして2030年まで埋立をさせていただくということで、合意を得ているところであり、それ以降の最終処分場につきましては、新しい処分場を建設しようということで、平成28年度に基本構想を策定して、新しい場所を選定する作業を今年度(平成30年度)に内部で行っている。最終処分場は清掃工場よりかなり大きい土地が必要となるため、そんなに大きい市有地はないことから、民有地を購入することが前提となる。次期最終処分場をなるべく小さくし、埋立量を少なくするために廃プラスチック類を焼却し、不燃性残さと焼却灰だけを埋め立てるようなごみ処理システムを新たに構築すべく、最終処分場、清掃工場、缶びん等の中間処理施設、これら3つの施設について連動して進めていっているところである。
	会長	そのほかに何か御質問はないか。
	委員	(特になし)
	会長	今後、パブリックコメントの後、清掃工場検討委員会から市に対して答申をして基本構想が決定していく流れとなるので、その際には、本審議会にも報告がなされると思う。
3 閉会	会長	それでは、本日の議事は以上になる。会議全体を通して御意見などあればお願ひしたい。
	委員	(特になし)

次第	発言者	発言の要旨
	会長	それでは、本日の審議を終了し、進行を事務局に交代する。
	事務局	<p>以上をもって、本日の審議会を終了する。</p> <p>最後に事務局からお知らせさせていただく。毎年春と秋に実施しているポイ捨て禁止運動の一環として行っている街頭啓発及びごみ拾いについて、5月12日（日曜日）の午前中に予定している。委員の皆様は別途ご案内を差し上げるので、大変お忙しいとは思いますが、是非御協力いただきたい。</p> <p>また、次回の審議会は4月頃に開催したいと考えている。議題としては、本日審議いただいた缶・びん等資源物中間処理施設整備基本構想（案）の最終確認や平成31年度の廃棄物関連主要事業に係る報告を予定している。また改めて日程調整させていただくのでよろしくお願ひしたい。</p>